

奥羽大学報



目次

平成17年度卒業証書学位記(学士・博士)授与式	2
博士(歯学)学位記授与	4
記念植樹/謝恩会	5
文学部教育実習事前指導/文学部就職状況	6
父兄会	7
平成17年度第2回歯学部教員研修講演会	8
大学院特別セミナー	8
第7回歯科医学教育者ワークショップ	9
医療系大学間共用試験実施評価機構本学現地調査	9
平成17年度4年生OSCE実施について	10
土井美德著『イギリス立憲政治の源流』(紹介)	10
第11回FDフォーラム参加報告/学友会活動記録	11
附属病院	11
私が薦める一冊の本/余滴	13
同窓会	14
同窓生のひろば	15
慶弔/人事	16
平成18年度進学相談会日程	17
行事予定	18
平成18年度教務日程(歯・文・薬)	別刷
平成18年度授業時間割表(歯・文・薬)	別刷

106

平成17年度 卒業証書学位記(学士・博士)授与式

平成17年度卒業証書・学位記授与式は、3月10日(金)午後1時から記念講堂において行われ、歯学部101名、文学部84名に卒業証書と学位記が、また大学院修了者4名及び論文提出者2名に博士(歯学)の学位記が授与された。

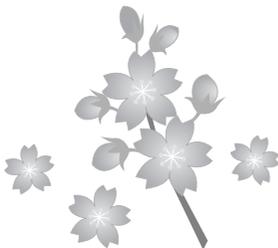
式は多数の来賓の方々のご臨席のもとに、ご父兄、教職員等が参列し挙行された。

理事長祝辞、学長告辞に続き、卒業生を代表して歯学部原田計真君が答辞を述べた。

さらに成績優秀者賞授与が行われ、最後はひとりひとりに卒業証書と学位記が手渡された。卒業生は感激の中、学び舎をあとにした。

各賞の受賞者は次のとおり。

晴川賞	歯学部	原田 計真
優等賞	歯学部	遠藤 学
		小野田俊介
		中村 幹子



告 辞

学 長 清 水 秋 雄

本日、ここに本学平成17年度卒業証書ならびに学位記授与式を執り行うに当たり、ご来賓の晴川学舎理事長影山英之先生はじめ役員各位、また多くの関係の方々のご臨席を賜り、誠に感謝に耐えません。厚く御礼申し上げます。

卒業生諸君、卒業おめでとう。厳しい学業の研鑽を積み、晴れてこの日を迎え、有為な社会人として巣立つことに対し、多大なる敬意を表します。

諸君が仲間入りする社会は、どのような状況にあるのでしょうか。わが国は、20年前の経済成長期、ある意味での成熟期、そして低迷期を経て、やっと回復の兆しがみえてきたようです。しかし、そこには古くて新しい問題として、豊かな先進国にありがちな、社会的影響の著しい人口問題、また変貌しつつある人生観や健康観、家族形態、等々の課題が横たわっています。

これらの対応として、社会経済の制度改革、競争原理の奨励、国際社会における優位性確保のための科学技術立国策、各業界の努力、等種々の方策の推進により、未だ途上ですが、今日に至っています。

一方でこれら社会の変動、改革、さらに文明の進歩に伴い、社会経済状況の分極化、堅実であった職種の不安定化、新たな業種の誕生、等浮き沈みの激しい現象が生じています。

かような移り変わりの顕著な現代社会では、何かにつけ従来型の経験則では当てはまらないことが間々ありますが、社会、個々人の創造的能力、努力によっては、多様なビジネスチャンスがあり、また新しい時代の医療の方向性を模索する好機でもあります。

諸君が社会において円滑に活動し、自己を実現するためには、社会情勢を冷静に見つめ、かつ修得した学識はもちろん、人間関係、社会交流などの素養を適切に駆使し、当面の問題解決に当たらなければならないのです。特に、社会における活動の原点は、良好な人間

祝 辞

理事長 影山英之

関係の構築能力にあるとの指摘があります。これは本学の開学以来、一貫して謳っている建学の理念、「人間性豊かな有為な人材の育成」に通じるところであります。これら、諸君の社会に通用する基本的素養は、緑豊かな環境下での授業、また教職員や学友、課外の諸活動などを通じた人達との交流によって培われ、育まれているものと信じています。

しかし、学園と社会における人との交流の厳しさには、大きな乖離が存在しています。学生時代は、家族、教職員、友人など限られた、親しい、利害関係のない人達との交流が主で、多少の失態があっても、許されてきましたが、社会ではこの許容範囲はかなり狭まっています。

この現実をわきまえ、さらに進んで、生涯を通じて涵養される質の高い人間力を、心身共に柔軟性のあるこの時期から求められることを願っています。

終わりに、諸君が健康でのびのびと積極的に能力を遺憾なく発揮され、社会に貢献されるよう、またご臨席の皆様のみますますのご健勝を祈念し告辞といたします。

卒業証書と学位記を手になされます皆さんと、ご臨席なされましたご父兄各位にとりまして、本日は“無上の喜び”と拝察いたし、心よりお祝いを申し上げます。

本日はまことにおめでとうございませぬ。

卒業される皆さんにとって、小学校入学以来今日までの16年或いは18有余年の長い間には、実にいろいろなことがあったことでしょう。限られた時間では到底語り尽くせぬ程の数多の経験は、「思い出」という一括りの言葉にとどまることはなく、必ずや皆さんの人生に豊かな実りを齎す、良質な肥料となってくれることを信じております。

とりわけ最後の学生生活である本学で、皆さんが「物事の本質を捉える大切さ」を学んで行ってくれば、私共にとってこれ以上の喜びはありません。

これから後、皆さんが常に良識と善意を備え、それぞれのよるべき職業を通して、地域社会に貢献なされますことを希ってやみません。そして、争いのない明るい平和な世界の実現に寄与してくれることを望んでおります。

何事も一朝一夕に出来ることばかりではありませんが、困難が全てでもありません。今、自分の前になすべきことがあれば、できぬ心配をするよりは、できたときの喜びを心に描いてやってみることです。失敗は成功の母、何度でも立ち直る努力を厭わなければ挫けることは恥にはなりません。

今日の仕事を明日に延ばさず、今日の仕事としてやり遂げることです。一日一日実行することです。それを繰り返して、積み重ね続けていく先に更なる可能性が生まれ、目標は達成されます。

皆さんは若い。精一杯頑張ってください。期待しております。

結びにあたり、卒業生の皆さんに喝采を贈ると共に、ご臨席の皆様のご健勝を祈念致しまして、私の祝辞といたします。



答 辞

卒業生代表 原 田 計 真

本日は、私達のために、このような盛大な卒業式を催していただき、誠にありがとうございます。ここに僭越ながら卒業生を代表いたします。一言御礼を申し上げます。

只今、理事長先生、学長先生をはじめ、御来賓の皆様から激励のお言葉を賜り、卒業生一同、感激を新たにしております。

私達は、今日をもちまして、長かった学生生活に終止符を打つこととなりました。思い返せば、入学当初は慣れない土地での生活に戸惑い、不安な日々を過ごすことが多くありました。そんな時、心強い存在となり、助けとなったのが周囲の友人達でした。どんな時にも互いに助け合い、励まし合うことで、様々な試練を乗り越えることができました。

また、諸先生方には、時に優しく、時に厳しく、私達を指導して頂きました。将来への希望と前進する勇気を与えて下さったのは、先生方でありました。

そして、多くの心配をかけたにもかかわらず、いつも温かく見守り、支えてくれた家族にも心より感謝しております。多くの方々のおかげで私達は今日、晴れてこの式に立つことができました。

私達は今、一人社会へと旅立とうとしています。まだ見ぬ社会は、今の私たちにとって厳しいものでありましょう。しかし、たとえどんな困難に直面しようとも、自分の将来を見つめ、自らの可能性を信じ、勇気をもって立ち向かってゆく所存です。学生生活で身につけたものを生かし、良きものを後世に伝え、多くの人々に感動を与え、感謝される人間になりたいと思います。

本日までご指導くださいました諸先生方や大学関係者の皆様方に、心より御礼申し上げますと共に、今後も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

最後となりましたが、諸先生方や御来賓の皆様方の今後のより一層のご健勝と、奥羽大学のますますのご発展を、心より祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

博士(歯学)学位記授与

博士課程修了による学位記授与者

色井 亮仁 (口腔組織構造生物学)

「ラット顎下腺の発育に伴うBMPおよびその受容体の局在」

茂呂祐利子 (口腔組織構造生物学)

「半導体レーザー照射が血管新生におよぼす影響」

林 由季 (顎口腔外科学)

「ラット下歯槽神経切断後の神経の回復過程—定量形態学およびHRP神経標識法による検索—」

中村 真治 (顎顔面口腔矯正学)

「Twin block applianceを装着したタッピング時の顎顔面頭蓋軟組織表面温度および脳活動」

論文提出による学位記授与者

大谷 正人 (歯科補綴学)

「上顎前歯部ブリッジにおける顎堤形態の分析」

相澤 徳久 (成長発育歯学)

「学童の身体発育からみた永久歯萌出と齲蝕罹患に関する歯科保健学的解析」

記念植樹

平成17年度卒業生による記念植樹が、3月8日(水)暖かい日差しのもと、「躍進の像」西側にて行われた。卒業生を代表して、歯学部・高山訓君、文学部・飯島聖君からそれぞれ挨拶があった。

また、学長からは、長い年月をかけ大木へと生長していくこの木を諸君と想い、大切に见守りたい。この植樹により、さらに緑豊かな大学へ成長していくとの謝辞があった。最後に、歯学部・文学部卒業生の手によりケヤキが植樹された。



謝 恩 会

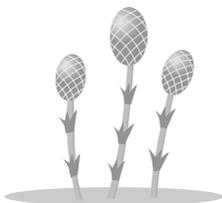
平成17年度卒業生による謝恩会は、文学部が3月10日(金)午後6時から市内ビューホテル・アネックスにて、また歯学部も同日の午後7時からホテルハマツにてそれぞれ開催された。関係者も多数出席し、終始和やかな雰囲気で大いに繰り広げられる中、卒業生たちは、在学中の思い出を語り、過ぎし日々への名残を惜しみ、また将来への期待と抱負を新たにしていたようである。



歯学部



文学部



文学部教育実習事前指導

1月30日(月)・31日(火)の両日、平成18年度に教育実習を行う予定の学生を対象に、教育実習事前指導が行われた。

郡山市教育委員会からは講師として2名の指導主事を、また市立郡山第四中学校からは校長先生を招き、教育現場の実際が紹介された。学生はこの事前指導を踏まえ、おもに自分の出身校で教育実習に取り組むことになる。実りの多い実習になることを願う。

1 / 30 (月)		10:45~12:15	13:15~14:45
	英語科	「授業計画の実際Ⅰ」 早坂 高則 教授	「授業計画の実際Ⅱ」 早坂 高則 教授
	国語科	「授業計画の実際」 田村 嘉勝 教授	
	英語科 ----- 国語科	15:00~16:30	
1 / 31 (火)		10:45~12:15	13:15~14:45
	英語科	「英語科の教授法」 郡山市教育委員会 学校教育課指導主事 村上 文生 氏	「教育実習の実際」 郡山市立 郡山第四中学校 安達 隆 校長
	国語科	「国語科の教授法」 郡山市教育委員会 学校教育課指導主事 原 真児 氏	
	英語科 ----- 国語科	15:00~16:30	
	「教育実習と生徒心理」 松原 宏明 講師		

文学部就職状況

本学の就職状況の傾向は卸売・小売業やサービス業に就職する学生の割合が多いことである。この分野に進む学生の比率は、就職が好調であった平成15年度は23%（内定者全体の約4割弱）、16年度は24%（内定者の4割強）、17年度は12%（内定者の3割）であり、16年度を頂点として推移している。各年度全体の就職内定率もこれを反映し、17年度は3月1日現在で16年度の約7割の内定率となっている。

こうした就職状況を生み出す背景には、特に女子学生に厳しい就職戦線が見えてくる。15年度から17年度に至る男子学生の就職内定率はそれぞれ約63%・53%・50%と推移するのに比べ、女子学生のそれはそれぞれおよそ59%・45%・24%となっている。この数値で見ると、女子学生の苦戦の様子が目に浮かぶ。

どうすればよいのか。大学では就職に関するいろいろな取組が行われている。就職ガイダンス・インターンシップ（企業研修）・個別進路相談などを積極的に活用し、情報力をつけ、技量を高める。県内5大学が主催する「就職HONKIセミナー」に参加する（18年度第1回は5月11日(木)に郡山市のビッグパレットで行われる）。企業セミナーに足を運ぶ、など目と耳と足を使って、自分流に工夫しながら挑んでほしい。

遠くの方に景気回復の兆しも見えるようだ。希望が見えないときは、希望をつくりださなければならない。諸君には、自分の将来のために「絶対に就職先を見つけるぞ!」という強い気持で就職活動に取り組んでもらいたい。

(南 鉄男)

父 兄 会

歯学部・文学部・薬学部父兄会の幹事会、総会は3月10日(金)に開催され、平成18年度の役員ならびに事業計画・予算について承認された。

主な内容については下記のとおり。

《平成18年度役員》

歯学部父兄会

会 長 坂口 亘弘
副会長 太田 博志
監査役 枝松 満

文学部父兄会

会 長 高橋 道弘
副会長 菊池 富雄

薬学部父兄会

会 長 畑 伸一
副会長 吉川 真一
監査役 鈴木 慎一

《主な行事予定》

歯学部父兄会	定時総会	H18年 4月 4日(火) H18年 5月13日(土) H19年 3月10日(土)
	保護者懇談会	H18年 5月13日(土) H18年10月14日(土)
	地域会	H18年 6月 3日(土) (東京グリーンパレス) H18年 6月10日(土) (大阪ガーデンパレス) H18年 6月24日(土) (江隣グランドホテル) H18年 7月 8日(土) (福岡ガーデンパレス)
文学部父兄会	定時総会	H18年 5月13日(土) H19年 3月10日(土)
	保護者懇談会	H18年 5月13日(土) H18年10月14日(土)
薬学部父兄会	定時総会	H18年 4月 4日(火) H18年 5月19日(金) H19年 3月10日(土)

〈予 算〉

歯 学 部

収 入

前年度繰越金	1,312,000
入会金	960,000
会費	16,375,000
雑収入	2,000
合 計	18,649,000

支 出

通信費	240,000
印刷費	70,000
会議費	1,350,000
消耗品費	10,000
旅費交通費	2,450,000
雑費	100,000
地域会開催費	4,570,000
課外活動援助費	6,220,000
学生福利厚生費	2,624,000
予備費	1,015,000
合 計	18,649,000

文 学 部

収 入

前年度繰越金	4,068,000
会費	880,000
雑収入	1,000
合 計	4,949,000

支 出

助成費	4,090,000
通信費	168,000
印刷費	50,000
消耗品費	15,000
慶弔費	60,000
会議費	144,000
交通費	170,000
厚生補導費	150,000
福利費	60,000
雑費	22,000
予備費	20,000
合 計	4,949,000

薬 学 部

収 入

前年度繰越金	2,383,000
入会金	2,000,000
会費	8,780,000
雑収入	1,000
合 計	13,164,000

支 出

通信費	150,000
印刷費	150,000
会議費	650,000
消耗品費	100,000
旅費交通費	400,000
雑費	113,000
課外活動援助費	2,300,000
学生福利厚生費	4,150,000
予備費	5,151,000
次年度繰越金	-
合 計	13,164,000

平成17年度第2回歯学部教員研修講演会

2月20日(月)に平成17年度第2回歯学部教員研修講演会が病院棟5階の臨床講義室において開催された。今回はインディアナ大学歯学部の名誉教授であり、さらにシラキュース大学工学部の特別研究教授である押田良機先生を講師としてお招きし、「新しい教育法(PBL、EBL)と研究の進め方」と題しご講演を賜った。

インディアナ大学では1997年に、アメリカの歯学部で一番最初にPBLチュートリアルを導入した大学である。次に導入したのがハーバード大学であり、現在南カリフォルニア大学が採り入れる準備をしているとの事であった。インディアナ大学でのシナリオの実例を提示され、学生がどのように考え、またどのような疑問点について討論すべきかの話がされた。チューターが解説をするとその時点で学生が考えることをやめてしまうので、チューターは学生の討論を見守るだけでいいといったことを強調されていた。

また、研究の進め方では、文献の整理の仕方(分野、内容、方法などによる分類)について話をされて、自分の研究分野の存在・位置を確認することの重要性が強調されていた。

今回の講演会では初めて教育と研究の2部構成としたが、皆真剣に聞き入り時間過ぎるのが早く感じたことと思われる。今回の講演会で得たものを教育・研究に還元されることを願っている。

(鎌田 政善)



大学院特別セミナー

大学院歯学研究科主催の特別セミナーが2月21日(火)、米国ロマリンダ大学歯学部矯正科、臨床教授のRaymond M. Sugiyama先生をお迎えして開催されました。講演は「優れた矯正治療を達成するためのMulti-Disciplinary Approach」と題したテーマのもと、「関連する他科とのチームアプローチを通しての優れた矯正歯科治療」といった内容で、数多くの症例を提示されての講演でした。

当日は大学院生だけでなく、各科の医局の先生方も含めて50名を超える多数の参加者でセミナー室は満席となり、参加者には臨床に大いに参考となる興味深い講演でした。またSugiyama先生のお話も予定の時間をはるかに超えて2時間半近い熱心な講演となり、参加者からの質問もあって盛況裏に終了しました。

(鈴木 康生)



第7回歯科医学教育者ワークショップ

3月24日(金)、25日(土)の両日に本学5号館において第7回奥羽大学歯学部歯科医学教育者ワークショップが開催された。今回のテーマは「客観試験問題作成とブラッシュアップ」であり、多肢選択問題の作成法ならびに問題のブラッシュアップ法の習得を目的としたものである。

対象は基礎歯学・臨床歯学の科目担当者であり、教授4名、助教授8名および講師12名の24名の参加があった。そこで1グループ6名の4グループでワークショップを実施した。スタッフとしてはディレクターには新田敏正歯学部長が、コ・ディレクターには山崎章学生部長が、さらに嶋倉道郎教授、鈴木康生教授、鈴木陽典教授、伊東博司助教授、宗形芳英助教授と鎌田政善教授がタスクフォースとして運営にあたった。また特別講師には北海道医療大学歯学部の安彦善裕教授ならびに神奈川歯科大学の櫻井孝助教授をお招きした。両先生には大変貴重なご講演をして頂き、参加者、スタッフともに客観試験問題作成法についての能力が向上したものと推察している。

今回のワークショップに参加された先生方が、この2日間で学んだ事を今後の問題作成に活かして頂き、学生の客観的評価に反映して頂くことを願う次第である。

(鎌田 政善)



医療系大学間共用試験実施評価機構

本学現地調査

平成17年11月に本学から社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構に参加を申し込み、平成18年1月には参加願いに係わる6項目に関する報告書を提出しました。それにともない、平成18年2月13日(月)に本学の現地調査を受けました。調査委員として機構の副理事長江藤一洋氏を含む6名が来校し、本学からは、歯学部長等13名がこの調査委員によるヒアリングに出席しました。江藤副理事長より「本学の機構への参加は、大学基準協会への加盟をもって認めることが機構の理事会で決まった基本方針である。今回の調査結果を踏まえて弾力的に対応できるか今後機構側で検討したい。」と経緯説明が述べられ、以下の4項目についての調査が行われました。①大学基準協会が指摘した改善事項がどの程度改善されているか②平成16年7月8日共用試験機構現地調査の際の指摘事項についての改善状況について③本学が実施しているCBTの概要について④本学が実施しているOSCEの概要について。

(新田 敏正)



平成17年度4年生OSCE実施について

平成17年度の歯学部4年生を対象としたOSCE (Objective Structured Clinical Examination: 『客観的臨床能力試験』) が3月8日(水)に実施されました。この試験は本学では5年生から始まる病院実習にむけての「登院前試験」の一環として実施されるもので、実際に学生が診療に参加するために最低限必要となる知識・技能および態度についての適正な評価を行う試験です。当日は4年生97名全員が受験し、病院棟3階の総合歯科第1診療室を会場として朝9時から夕方5時過ぎまでの全日で全受験生の試験を無事終了しました。試験課題は前学年生と同様に6課題とし、2系列同時進行の形で実施しました。試験実施には19名の実行委員を含めて、総勢122名の教職員の方々の協力の下に整然と行われ、受験生も真剣なまなざしで各課題に取り組んでおりました。なお、このOSCEはこれまで5年生に登院してから実施しておりましたが、本年度からは学年末の3月に登院前試験のCBT (本学では筆記試験で実施) とともに実施することになったものです。またこのOSCEへの対応として、カリキュラムの改正により本年度から4年生後期に新しく教科目として設定された「臨床総合演習」(本年度は19の臨床課題)の中で、各臨床科教員の精力的な指導の下に学生は熱心に演習を行ってきました。

(鈴木 康生)



土井美徳著

『イギリス立憲政治の源流』(紹介)

このたび、本学文学部講師の土井美徳先生が、上記の著書を木鐸社から上梓された。博士論文をもとにまとめられた、500ページに迫ろうとする大著である。

大陸ヨーロッパに対して、イギリス法制度を特徴づけているのはコモン・ローである。慣習法を基礎にしながらか判決がなされ、そうして得られた判例の集積がまた、裁判の拠り所となっていくというコモン・ローのあり方は、法の範囲のみならず、英国の思考様式一般の根底をなしている。

本書はコモン・ロー概念の形成時期を前期ステュアート時代(17世紀前半)と定め、この時代の政治的言説を子細にたどっていく。よく知られた法学者や政治哲学者たちの著作によるのではなく、当時のさまざまな階層の政治家や法曹たちの言説をひろく読み解き、その時代の政治観念の全体的な様態を浮かび上がらせる作業は、ミシェル・フーコーの「知の考古学」を思い起こさせる。

ミクロの視力と精査博搜の努力、そして全体を見渡そうとする構想力と「政治的アリーナの可能性」を求めるときわめて今日的な問題意識。これらとともにそなえた本書は、多年にわたる知的営為のもたらした見事な果実といえよう。

(江島 宏隆)

第11回FDフォーラム参加報告

第11回FDフォーラムは去る3月11日(土)・12日(日)の2日間に亘り財団法人大学コンソーシアム京都主催のもと京都市において開催され、全国の国公立大学の教職員約900名が集い「これからの大学教育」をテーマに両日ともに大変熱心な討議が行われた。

はじめに慶応義塾長の安西祐一郎先生が「これからの時代の大学教育」を演題に基調講演され、続いてシンポジウムでは「大学教育への期待」をテーマに東京大学名誉教授寺崎昌男先生、早稲田大学大学院教授北川正恭先生、立命館大学教授椋本洋先生の3名のシンポジストにより、FD (Faculty Development) およびSD (Staff Development) の解釈とその必要性、また大学マニフェストの必要性などの説明がなされた。最後に各分科会に分かれての討論が行われ、教育改革に関する大変有意義なフォーラムを無事終了した。

(千葉 有)

学生会活動記録

○アメリカンフットボール

第38回全日本歯科学学生体育大会

平成18年3月12日(日)～平成18年3月19日(日)

日本大学松戸歯科グラウンド 第4位



附属病院

平成17年度臨床研修歯科医師OSCE実施

2月4日(土)に本学附属病院にて臨床研修歯科医師OSCEを実施し、臨床研修歯科医32名が受験しました。課題は、1) 初診患者の医療面接、2) ラバーダム防湿、3) テンポラリークラウンの作製、4) 1次救命処置で、これら4ステーションを2列で行いました。総スタッフ86名で行いましたが、当大学でのOSCEは、学生および臨床研修歯科医を対象に計7回目の実施となり、スタッフも習熟し、滞りなく終了しました。ご協力頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

本年度は、臨床研修歯科医師を含めて病院全職員の約240名に対して1次救命処置の講習会を実施しました。また、本年度の歯科医師国家試験には、偶発症に対する救急対処や1次救命処置に関する問題が多数出題されました。そこで、臨床研修歯科医師OSCEの課題として初めて1次救命処置を取り入れましたが、現在、1次救命処置は臨床研修歯科医師としての必修項目にもなっており、全国に先駆けた良い試みになったと思います。このような試みは、積極的に全国の学会等において発表していきたいと考えております。

学生および臨床研修歯科医師に対するOSCEは今後も継続し、なおかつ発展させていかなければなりません。同時に、OSCEは多くのスタッフが協力しなければ実施できない教育プログラムでもあります。どうぞ今後とも皆様の協力を宜しくお願い申し上げます。

(山崎 信也)



平成17年度歯科医師臨床研修修了式

平成17年度歯科医師臨床研修修了式が、3月27日(月)に附属病院5階の臨床講義室で挙行された。

はじめに、天野病院長より臨床研修歯科医32名全員に修了書が授与された。続いて、優秀賞ならびに精勤賞の授与が行われた。今年度の優秀者の3名には新田歯学部長から楯が、また、精勤者の12名には天野病院長からメダルが授与された。最後に新田歯学部長から、本学附属病院での研修に誇りを持ち、さらに習得した1年間の研修成果をもとに更なる精進と、歯科医師としての人間性の向上を期待する旨の訓示が述べられ閉式となった。

平成18年度からは歯科医師臨床研修が必修化になるため、今回が努力義務である最後の研修歯科医の修了式となった。本学附属病院での研修を修了した32名が、21世紀の歯科医療を担う立派な歯科医師として、さらに国民に望まれる歯科医師として大いに研鑽を積み、各地域で活躍されることを願っている。

(鎌田 政善)

平成18年度診療報酬改定に係わる説明会

3月27日(月)午後5時30分から臨床講義室にて、平成18年4月1日から実施される診療報酬改定の説明会が開催された。

改定の概要として、医療費の内容の分かる領収書の発行が課され、歯科医師臨床研修の必修化に伴う臨床研修病院入院診療加算が新設されました。

最も特徴的なことは、患者へのインフォームドコンセントが重視され、指導管理料等(本院では歯科口腔衛生指導、歯周疾患指導管理、歯科特定疾患療養管理、歯科矯正管理など)で説明を行った病状、治療計画、指導内容等を文書により情報提供することが要件となり、診療録への添付も義務付けられました。その他に齶蝕処置、咬合調整、加圧根管充填、歯周疾患処置、補綴物の除去、義歯の指導料と調整料等のかなりの変更点があり、

4月1日に混乱の起こらないように準備を進めることが求められました。

(齋藤 高弘)

附属病院研修セミナー

平成17年度も附属病院研修セミナーが毎週木曜日17時あるいは17時半から1時間～1時間半、計41回開催されました。臨床研修医を対象とした本学教員による臨床に関する講演ばかりでなく、診療録整備委員会、医療安全推進委員会、福島県歯科医師会専務理事安齋勲先生、本学12期卒の阪口英夫先生、10期卒の難波郁雄先生による特別講演、そして研修医による症例報告会も行われました。非常に充実し意義深い一年間でした。

(田代 俊男)



私が薦める一冊の本

『がん遺伝子に挑む』

(ナタリー・エインジャー著、野田洋子訳
東京化学同人)

がんイコール不治の病という概念も最近では薄れてきたが、やはり「がん」は死亡原因の第一位であり、最も関心を集める疾病であることに変わりはない。

この本は「がん遺伝子」研究のパイオニアで、世界のトップランナーでもある米国マサチューセッツ工科大学 (MIT) ホワイトヘッド研究所教授のロバート・ワインバーグ博士が、「がん遺伝子」の発見を成し遂げた様子を女性ジャーナリストがノンフィクションで描いたものである。そして、ワインバーグ教授よりもむしろ彼の研究室 (ラボ) の多くの若手研究者達が主人公となって物語が進行する。

誰が発見のプライオリティを取るかということをめぐる、同僚同士が激しく対立する様子も率直に書かれている。他の研究者の研究がどの程度まで進んでいるのかを確認するためにさぐりの電話をいれようとするあたりは滑稽でもある。このような世界の最先端を行くラボであっても単純で馬鹿げたミスがおこる。器械の設定温度を間違えたために実験が数ヶ月間もストップしたというような信じられない話が述べられている。さらにラボに留学していた3人の日本人研究者に関する逸話が、とてもおもしろい。米国人の見たハードワーカーとしての典型的な日本人研究者が良く理解出来る。

本で書かれている時期は、ちょうど私がボストンにいたころと重なる。チャールズリバーという河を隔ててMITと反対側にある大学で毎日を過ごしていたが、ボストンの町並みの描写を読むと心から懐かしさが込み上げてくる。

学生諸君にぜひこの本を読んでいただきたい。特に将来の米国留学を考えている学生には、大きな刺激と勇気を与えてくれると思う。また、科学研究の持つ厳しさと素晴らしさを

同時に教えてくれる。本学の図書館にもあるので、一度手に取っていただければ幸いである。

(清浦 有祐)

余 滴

「人の歯はサメ肌から？」

再生療法という言葉をよく耳にする今日この頃ですが、先日私の患者さんから面白い質問を受けました。「先生、人間もサメみたいに歯が何度もはえ変わったら、こんなに苦勞しないで済むのね！究極の歯の再生療法ですね。」と患者さん。「そうですね。でもしたら歯医者さんが要らなくなりますね (笑)」と私。この何気ない会話にも再生療法という言葉が浸透していることに驚きました。

サメといえばサメ肌を思い出します。ざらざらした肌のたとえに使われますが、実はサメの肌にはうろこのかわりに小さい歯が無数に配列していることをご存知でしょうか？しかもその構造はひとの歯の構造とまったく同じで、表面にはエナメル質、そして象牙質、中心部には歯髄が存在しています。サメの歯はジョーズなどでおなじみの鋭い形態をしています。サメ肌の歯は外界から身を守る鎧の役割を果たしているといわれています。しかもその再生力は大変強いものです。私たちの遠い祖先の口に歯が生えたのは、進化の過程で外界から身を守っていたうろこがやがて口の中に入り込み、それが大型化して食べ物を噛み砕くための歯になったという説もあるくらいです。歯も時には、身を守るための武器にもなります。今も昔も、うろこ(歯)の機能はある意味では変わっていないようですね。

でも、このサメ肌の歯の再生のメカニズムを解明したら、「究極の歯の再生療法」は笑い話から現実のものになるかもしれません。したら我々歯科医師はどうなるのでしょうか。

(横瀬 敏志)

同窓会

歯学部同窓会

昨年6月25日(土)に、恩師、同期、家族の約60名が集い郡山で2期会が開催された。今回で通算6回目となる。卒業10周年を記念した磐梯熱海での第1回から始まり、静岡県熱海、札幌、東京、大阪と、当初は5年おきの開催予定が近年は短縮傾向にある。これも我々が年を取り子育ても一息ついた現れかもしれない。毎回のいろいろな趣向に幹事の苦勞が窺えるが、「今度は俺の所で」と幹事候補が目白押しなものこの会の特徴でもある。久しぶりに見る顔、卒業以来の懐かしい顔、容姿体型が変わって直ぐに名前が出てこない顔、逆に昔と同じ体型を自慢している顔、同伴の子供に見事に遺伝子が伝承されている顔等々、同じ釜の飯を食った旧友達との歓談は楽しいものである。

今回は郡山ということもあり多数の恩師の先生方において頂けた。卒後27年も経つと先生方との年齢差が縮まったような錯覚を覚えるのは私だけだろうか。毎回必ず足を運んで下さる当時の学年主任島野元教授の笑顔(時には泣き顔)に会えるのは最高の楽しみの一つである。いつもカメラを片手にあちこちの席を回られ、後日そのスナップをわざわざ送って下さるのだ。この誌面を借りて御礼申し上げます。会場内の片隅にパワーポイントを使って卒業アルバムや学生時代のスナップをスライドショー設置した幹事のアイデアに皆一喜一憂し、また故人を偲ぶ事もできた。2次会3次会と時の経つのを忘れ、懐かしの思い出話に花を咲かせホテルに戻っても話は尽きず、気が付いたら既に空は明るく朝を迎えていたなんて、学生時代にタイムスリップした様なひと時を過ごしてしまった。さすがに翌日の同窓会評議員会、総会は辛いものがあった。でもまわりを良く見ると同期の出席者は皆同じ寝不足顔。今も昔もやる事は皆同じ。やっぱり同期の仲間っていいよなあ。総会終了後、3月に母校を卒業したこれまた同期の

息子(今や後輩)を呼び出し昼食を共にして駅まで送ってもらい郡山を後にした。

後日幹事達から当日の様様を編集したDVDが届き感激!お世話になりました。同窓のみなさんも同期会をどんどんやりましょう!東京での開催には東京支部も協力しますよ!

当日元気なお姿で参加されていた片岡保男元教授が昨年末急逝されました。ご生前のご厚情に深謝しご冥福をお祈り致します。合掌
(東京支部長 山本 清彦)

文学部同窓会

〈今年卒業された皆さんへ〉

ご卒業おめでとうございます。今年卒業された皆さんは全員第14期生として、同窓会会員になりました。すでに保護者様宛で皆さんへ、同窓会入会についてのご案内と住所登録ハガキ、記念品を郵送させて頂いております。同封されています書類をよく読んで、今後手続きをして頂ければと思います。また特に「同窓会費」については終身会費となっておりますので、会員の皆さん全員にお支払いして頂いております。なにとぞご協力頂ければと思います。

〈同窓会ホームページが一部変わりました〉

文学部同窓会ホームページ[http://www.ohu-l\(エル\).net](http://www.ohu-l(エル).net)が一部更新されました。最近の大学周辺の情報や、SSLセキュリティ機能の付いた「住所登録・変更」ページも新しくなりましたので、ぜひご活用ください。また会執行部活動や、ホームページに関するご要望ご意見がございましたらメール等で何なりとお寄せください。info@ohu-l.net

(松尾 毅)

同窓生のひろば



森蔭 由喜

(歯学部12期生)

成功する歯医者さんに必要といわれる「コミュニケーション」「チームアプローチ」「デンタルマネージメント」を統合した医療を目指したいと思いつけて13年が過ぎようとしていますが、振り返ってみますと私自身何も進歩していない様な気がします。

平成元年に私は東北歯科大学を卒業しました。その頃大学名が奥羽大学に改められて単科大学から総合大学にかわるという時期でした。

それから東京医科歯科大学で研修を受けました。その頃社会経済はバブル期にあり田舎出身の私には見る物、聞く物全てが華やかで驚くものでした。都会の独り暮らしは楽しい事もありましたが、それとは裏腹に辛い事もたくさんありました。気がついてみますと安っぽいプライドが高くなり、自分の甘さが先行してしまう毎日に「これでいいのだろうか?」と自問自答する日々が続いたこともありました。

平成4年には私の周りでは同期の先生方が開業をし始めて、そのうちの何人かの先生の医院にもお祝いに駆け付けたこともありました。その頃はバブル経済崩壊に突入したといわれ、いろいろな職種の方が将来に不安を抱いていました。歯科医療業界も例外ではなく1年でも早く開業した方が良いといわれていました。

私は兵庫県出身なのですが開業においてはいろいろな規制がありましたので、現在は埼玉県で開業するに至っています。不器用な私には自分の時間など殆どなく、四六時中運営管理の事や自分に課せられる社会的責任の重さ等で頭が一杯になります。開業することはとても厳しいことだと痛感しています。

医療の社会性を問われている現在、患者の要求する新技術・設備の導入さえもままならなくなりつつあります。これからの展望も明

るく語れる日が来ることを信じて、支部会にも参加させて頂いております。またいろいろな悩み事に直面した時に対処して下さいる諸先生方に、この場をお借りして御礼申し上げます。そして新しく社会に羽ばたかれる後輩の先生方には良きお手本になれる様精進しなければならぬと改めて思います。

この様なシビアな社会情勢の中で理想と現実とのギャップをどのようにして埋めていくかが今後の我々の課題であり、それによって今後の展開も大きく位置づけされることなのでしょう。



奥山由美子

(日文科11期生)

寒暖の定まらない日が続いておりますが、皆さまお元気にお過ごしでしょうか。

早いもので大学を卒業してから3年の月日が流れました。今は母校である、奥羽大学の図書館に勤めています。

昔から図書関係には大変興味があったのですが、まさか本当に図書館員として働けるとは夢にも思っていませんでした。本に囲まれ、さぞかし“まったり”と仕事出来るのかと思いきや…とんでもない! 力仕事と事務処理が毎日の大半をしめ、更には出張などと色々でした…。大学を卒業するまでの人生の中で、バイトは2回。しかも5日間リングの箱詰め(朝7時から2時間、時給900円)、3日間ドーナツ袋詰め(朝11時から4時間、時給750円)という食に縁のあるものばかりで、力仕事など全くした事がなく、事務って何? という勢いでわからず、仕事に慣れるまでには大変苦労しました。

図書館での私の仕事は、主に書架の整理や本の発注・納品等々です。他にも本の受入作業や文献の取寄せ、雑誌の受入・製本、寄贈

書の受入等など、多種多様・多事多端です。

現在の蔵書数は約22万冊、年間受入総数は約4千冊にもなり、それらを管理し、貸出・閲覧を行っています。書架整理においては、返却図書に戻す他にも、蔵書が多いため利用者が置き場所を間違えて、分類ではあり得ない所に存在させられた本や、不明になった本の発掘などをしています。しかし整理で一番苦勞するのが本の重さです。重ねて持つと非常に重いので要らない腕力がついてきます…。本の発注・納品の書類においては、些細なミスが大きなミス。指摘されては常に痛恨の一撃です（いや一撃で終わればまだ良いのですけど）。

そんなこんなながらも、毎日を楽しく精一杯仕事に励みながら過ごしています。

皆さんも、体に十分気をつけながら共に頑張りましょう。

慶弔

<訃報>

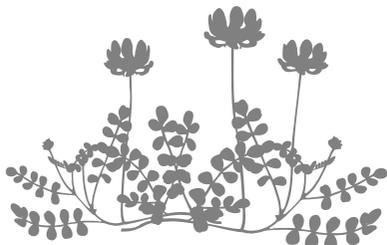
慎んでお悔やみ申し上げます。

- 薬学部 生物・衛生化学教授 上野 明道
養父 上野 隆 殿 (80歳) 1月22日
 - 歯学部 生体材料学教授 長山 克也
実母 長山フクノ 殿 (93歳) 1月26日
 - 歯学部 口腔機能分子生物学教授 丸井 隆之
義父 重松 史郎 殿 (86歳) 2月4日
 - 歯学部 ドイツ語助教授 小畑 良夫
実父 小畑萬治郎 殿 (95歳) 2月22日
 - 歯学部 附属病院助手 齋藤はるか
祖母 齋藤 緑 殿 (87歳) 3月6日
-

人事

<退職>

内山 勝	技術職員	総務部	3月10日付
小林 康二	講師	歯科補綴	3月31日付
大谷 裕亮	助手	歯科保存	〃
山本 宏	〃	歯科補綴	〃
後田タロオ	病院助手	附属病院	〃
大島 洋志	〃	〃	〃
小倉 章暢	〃	〃	〃
加藤 貴也	〃	〃	〃
加藤 理彦	〃	〃	〃
志賀 博信	〃	〃	〃
千葉 大輔	〃	〃	〃
辻村 啓	〃	〃	〃
中埜 高	〃	〃	〃
村田 朋	〃	〃	〃
柳生 博昭	〃	〃	〃
山科 敬	〃	〃	〃
橋本 博幸	助教授	日本語日本文学科	〃
安藤 好恵	講師	〃	〃
土井 美徳	〃	共通教科	〃
高野 奈美	歯科衛生士	看護部	〃



平成18年度 進学相談会日程

月 日	開催地	開催場所	開会時間
5月9日(火)	新宿	新宿NSビル	15:00～18:00
22日(月)	山形	山形国際ホテル	15:00～18:00
23日(火)	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡	15:00～18:00
24日(水)	秋田	秋田ビューホテル	15:00～18:00
27日(土)	名古屋	第二豊田ビル	13:00～16:00
29日(月)	松本	ホテルブエナビスタ	15:00～18:30
30日(火)	長野	ホテルメトロポリタン長野	15:00～18:30
31日(水)	甲府	ベルクラシック甲府	15:00～18:30
6月6日(火)	仙台	仙台サンブラザ	15:00～18:00
〃	宇都宮	マロニエブラザ	14:30～18:30
7日(水)	水戸	水戸ブラザホテル	15:00～18:30
〃	福島	ホテル福島グリーンパレス	15:00～18:00
8日(木)	郡山	郡山ビューホテルアネックス	15:00～18:00
9日(金)	いわき	いわきワシントンホテル	15:00～18:00
10日(土)	大阪	天王寺ミオ	13:00～16:00
12日(月)	会津	会津若松ワシントンホテル	15:00～18:00
〃	沼津	キラメッセぬまづ	15:00～18:30
13日(火)	静岡	ツインメッセ静岡	15:00～18:30
〃	新潟	ホテル新潟	15:00～18:30
14日(水)	浜松	アクトシティー浜松	15:00～18:30
〃	長岡	ホテルニューオータニ長岡	15:00～18:30
16日(金)	高崎	高崎サンパレス	15:00～18:30
19日(月)	大宮	大宮ソニックシティー	15:00～18:30
20日(火)	横浜	横浜新都心ビル	15:00～18:30
21日(水)	千葉	ペリエ	15:00～18:30
24日(土)	新宿	新宿NSビル	12:00～16:30

行事予定

平成18年

4
月

April

3(月) ㊦在学生ガイダンス(2年)
3(月)～10(日)(月)
㊦学位論文申請受付
4(火) ㊦㊦入学式、父兄会総会
(新入生保護者懇談会)
5(水) ㊦㊦新入生オリエンテーション、
㊦在学生ガイダンス(2～6年)
㊦登院式(5年)、
第99回歯科医師国家試験
合格者発表

6(木) ㊦前期授業開始(1～6年)、
㊦大学院入学式
6(木)・7(金)
㊦フレッシュマンキャンプ(1年)
7(金) ㊦大学院オリエンテーション、
㊦教職・司書・司書教諭ガイダ
ンス、在学生ガイダンス、履修
仮登録、就職ガイダンス(4年)
7(金)・8(土)
㊦学外研修(1年)
8(土) ㊦基礎学力試験(1年)
10(月) ㊦㊦前期授業開始

12(水) ㊦影山晴川青英奨学金授与式、
父兄会決算書の監査
14(金) ㊦父兄会決算書の監査
17(月)・18(火)
㊦履修登録変更期間
19(水) ㊦㊦㊦学生支援機構
奨学生募集説明会
20(木)・21(金)
㊦履修表確認・訂正・決定
21(金) ㊦父兄会決算書の監査
29(土)～5/5(金)
特別休業

4月・日付未定

㊦㊦㊦健康診断、㊦早期体験学習(歯学部附属病院)(1年)

5
月

May

11(木) ㊦HONKIセミナー(ビッグバレットふくしま)(4年)
13(土) ㊦㊦保護者懇談会、父兄会総会、
㊦共済基金委員会
19(金) ㊦父兄会総会、幹事会、
㊦進路ガイダンス(6年)
24(水) ㊦就職ガイダンス(4年)
27(土)・28(日)
㊦㊦㊦学長杯球技大会

5月・日付未定

㊦早期体験学習(学外病院薬局、調剤薬局)(1年)

6
月

June

3(土) ㊦地域会(東京)
5(月) ㊦慰霊式
8(木) ㊦インターンシップ説明会(2年)
10(土) ㊦地域会(大阪)
17(土) ㊦学内学会
24(土) ㊦地域会(仙台)

6月・日付未定

㊦㊦交通安全講習会、
㊦キャリアガイダンス(ランチョンセミナー)(2年)
㊦早期体験学習(学外病院薬局・調剤薬局)(1年)、
㊦公務員模擬試験

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報106号(通算No.231)平成18年3月31日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp